

令和5年度 第2回栃木市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和6年1月29日(月) 午前10時00分～午前11時30分
2. 場 所 栃木市役所 議会全員協議会室
3. 出席者
(構成員) 大川秀子 市長、青木千津子 教育長、後藤正人 教育長職務代理人、福島鉄典 委員、西脇はるみ 委員、大塚裕子 委員、林慶仁 委員

(事務局) 癸生川 総合政策部長、押山 総合政策課長、金井 教育次長、佐藤 参事兼教育総務課長、加茂 美術・文学館課長、他担当職員

4. 内 容

1 開 会

2 あいさつ

○大川市長

お忙しい中、第2回栃木市総合教育会議にご参集を賜りまして誠にありがとうございます。ごさいます。

また、日頃より市政運営及び教育行政にご協力、ご支援いただいていることに心より御礼申し上げます。

先日、栃木県教育委員会において、第三期県立高等学校再編計画の策定が可決されました。

現在、生徒数が減少している中で、学校再編はとても難しい問題だと思います。本市においては、栃木農業高校、栃木工業高校、栃木商業高校の3校が統合されることとなります。これまで本市には特別支援学校を含めて9つの高等学校があり、素晴らしい教育環境が整っていると話をしておりましたので、高等学校の数が減ってしまうことは大変残念に思います。

統合されても、複数の職業系専門学科を併置した未来共創型専門高校に生まれ変わるとのことですので、引き続き、将来のスペシャリストの育成を要望してまいります。

12月23日(土)に、市と市議会の共催による初めての中学生議会を開催しました。各中学校代表生徒14名による一般質問と、それに対する市執行部の答弁がともに熱心になされ、大変有意義な議会になったと思っております。

また、中学生からの提案を受け、インフルエンザ予防接種の助成対象を小学2年生から中学3年生まで拡大することといたしました。

中学生議会につきましては、子どもの頃からまちづくりに関心をもってもらえる大変良い機会であったと思っております。

本日は、「部活動の地域移行等について」と「美術館及び文学館の運営状況等」について協議していただきます。どうぞよろしくお願いたします。

3 協議・調整事項

(1) 部活動の地域移行等について

○事務局

※資料により説明

○大川市長

委員の皆様からご質問、ご意見をお願いいたします。

○福島委員

専門でない種目の部活を担当させられることが、学校の先生になりたくない要因の一つになる可能性もある。

優秀な人がなりたい職業が学校の先生、優秀な子ども達を育てるのも先生。国として、学校教育を重要視しているのであれば、教育環境を整える必要があると思う。部活動の地域移行のような形で、学校の先生方の負担を減らすことは大切なことだと思う。

報酬もなく意欲と熱意だけで部活の指導をしていた学校の先生方も、地域移行により兼業という形で報酬をいただけるのであれば救いになると思う。

モデル地区については、協力いただける団体があるから地域移行が実現できているのか。他の地域でも同様の団体が育ってきているのか。そのあたりの情報を市に整理していただくとともに、スポーツに限らず文化・芸術の分野にも広げていくための受け入れ体制の整備をお願いしたい。

○事務局

部活の地域移行に係る短期目標では、市内全ての公立中学校の休日の運動部活動を2つ以上、地域クラブ活動にすることを目指している。令和6年度は7校11部活、令和7年度は13校26部活と徐々に広げていきたい。

部活の地域移行を進めるにあたって、地域における指導者の育成が課題となっている。栃木市スポーツ協会にも相談しているが、なかなか指導者が見つからない状況である。

兼職兼業の制度を活用し、休日の部活に従事することが可能な先生方にも指導していただくなどして、指導者を増やしていきたいと考えている。

全ての部活を地域移行させることは厳しいと思うが、スポーツ課と連携しながら指導者の育成に取り組むとともに、文化協会等とも連携しながら受入体制を整

えていきたいと考えている。

○大塚委員

休日に開催される試合については、クラブチームの指導者が生徒を引率するのか。

○事務局

休日の試合は、地域スポーツクラブの指導員が生徒を引率することとなっているが、練習試合や学校名で登録している大会については、学校の先生が引率している。移行期間中ということで、試行錯誤のうえ運営している。

また、部活の地域移行については、学校単位で進めていくことを考えている。競技スポーツとなると広域的な活動になるかもしれないが、体力づくりなどは地域単位での活動になると考えている。

○教育長

部活動の地域移行が進むのであれば、学校名で登録している大会の数も減らしていく方向になると思われる。

○後藤委員

スポーツを楽しみたい子どももいれば、スキルを磨きたい子どももいる。

指導者の確保、指導者の質の確保、実施場所の確保が、全国の自治体でも課題になっている。栃木市については、地域との連携、学校との連携が図られており、スムーズに移行が進んでいると思う。

学校の先生については、専門でない種目の部活の担当になってしまうことも、今まで多々あったと思う。そのようなことを防ぐためにも、部活の地域移行は素晴らしい取組だと思う。部活を学校と切り離すことにより、学校の先生方の働き方改革に大きく寄与していると思う。

一方で、部活の地域移行が進んでも人気のある先生は忙しい状況が続くと思う。学校の先生の兼職兼業は非常に難しく、勤務時間が過労死ラインに達してしまう状況も考えられる。

学校で行う部活は無償であったが、地域クラブ活動に移行することにより保護者の負担が生じるのか。困窮家庭では、スポーツに生きがいを見出すことも多いので課題はあると思う。

○市長

部活動の地域移行については、今までのやり方を大きく変えるわけだから、課題等も多々出てくると思う。

○福島委員

スポーツ庁からの指導により部活動の地域移行を進めていると思うが、いつまでに進めなければならないなどの制約はあるのか。また、基準等に満たない場合、罰則はあるのか。部活の地域移行については、矢板市などが進んでいるという新聞記事を見た。他市との共存・共営はあり得るのか。

○事務局

部活動の地域移行について、制約や罰則等はない。

モデル事業については、手をあげた自治体が国から補助をいただいている。まだ実施していない自治体もある。

学校の先生が他地域の学校に異動したら、部活の地域移行が進んでいなかったということもあり得る。教育委員会内では、自治体間で先生の兼職兼業等の基準を揃えるべきという意見もある。また、部活指導者の取り合いなども考えられることから、栃木県が地域スポーツクラブ等のリストを作成し、全体の調整を行う仕組みも必要ではないかと思っている。今後、他市町と調整を図っていくことが必要になると考えている。

○教育長

本市における部活動の地域移行については、栃木県の中で進んでいる方である。本日の午後、6回目の検討会を開催し、部活動の地域移行に係る基本方針が策定される予定である。

(2) 栃木市立美術館及び文学館の運営状況等について

○事務局

※資料により説明

○大川市長

委員の皆様からご質問、ご意見をお願いいたします。

○後藤委員

栃木市の街なかでは、雛祭りなどが開催されるとともに、蔵の街大通りの各店舗では季節の人形を飾るなど、季節ごとに様々な取組がなされている。栃木市の街なか全体が、美術館になっているようである。

美術館に入館すると、街なかの店舗で利用できるクーポンがいただけるなど、街全体でイベント等に取り組んでも面白いと思う。

美術館長のマネジメントに関する中長期的なポリシーがとても素晴らしかった。

10年、20年後の美術館の在り方を考えられていた。美術館のスポンサーは市民であり、市民を大切にすることが重要と話されていた。

現在行われている企画展「写真家が捉えた 昭和のこども」においても、来館者が自分の写真を張って楽しめるなど、今までにはない工夫がなされている。美術館については規制が少なく、美術館の工夫次第で様々なことが出来る。美術館は、地域の拠点としても役に立つと思う。

○市長

栃木市立美術館について、地方にある美術館としては、企画や集客等を頑張っていると複数の新聞に書かれていた。引き続き、努力していきたいと思っている。

○林委員

美術館の目玉となる作品が欲しい。作品購入のために200万円の予算を確保していると伺ったが、人気の高い高額な作品を買うときには、予算をプールし購入することはできるのか。

○事務局

当初予算には、美術品購入費として約200万円を計上している。高額な作品を購入する際には、財政課と協議のうえ、予算を補正し作品を購入することとしている。

○市長

市としても、目玉となる作品が欲しいと思っている。有名な作品であれば、全国どこからでも見学に来ていただけたらと思う。

○林委員

美術館が実施している市内小中学校等向けの出張授業は、学芸員が学校を訪問し、子ども達に色々と教えてくれるとても良い事業と思う。文学館においても、市民等に指導いただける機会があればお願いしたい。

○事務局

文学館では出張授業を実施していないので、今後、検討していく。

○西脇委員

他地域にある栃木市立美術館と同規模の美術館について、入館者数はどのような状況か。

○事務局

栃木市立美術館と同規模の美術館については、年間1万人程度が多いと聞いている。本市の美術館については、令和4年度が約1万500人、令和5年度が約1万4千人となっている。

○西脇委員

美術館及び文学館のサポーターについては、資格が必要か。

○事務局

サポーターになるために資格は不要である。サポーターをやってみたい方は、美術・文学館課にお声掛けいただきたい。現在約50名のサポーターが登録されているが、もっと増やしたいと考えている。サポーターの業務についても、より拡大し、展示の説明なども行っていただきたいと考えている。

○福島委員

過日、美術館を訪れた際、喜多川歌麿の3部作「雪・月・花」が展示されている部屋があり、入った際に大変感動した。多くの子ども達に無料で見せていただきたいと思った。子ども達が受ける影響は大きいと思う。近くの小学校だけでなく、離れた小学校の子ども達にも見せていただきたい。

また、さくら市ミュージアムの常設展では、旧氏家町の庄屋やそれに纏わる昔の道具等が展示されていた。栃木市であればもっと素晴らしい展示が出来るのではないか。美術館の常設展でそのような展示を行えば、多くの市民が興味を持つと思う。

○市長

嘉右衛門町伝建地区拠点施設にあるガイダンスセンターに、昔の街並みがわかる地図を展示しているが、1箇所ではなく、複数の施設で昔の地図を展示していきたいと考えている。

○事務局

小学校の授業での利用については、まだまだ少ない状況である。少し離れた学校ではバスを利用しなくてはならないなど、利用しづらい点があるのかもしれない。学校の先生方にご協力をいただきながら、利用回数を増やしていきたいと考えている。

○市長

ヨーロッパでは、多くの子ども達が美術館内で学芸員の説明をよく聞いている。文化の違いとはいえ、本市でも多くの子ども達に美術館を見学していただきたい。

○後藤委員

國學院大學栃木短期大学では、毎年、韓国からの留学生を受け入れている。先日、留学生達は「栃木市に来たらレトロな喫茶店でコーヒーを飲みたい。かんぴょうラーメンを食べたい」などと話をしていて。そこで、栃木市が映画「ALWAYS 3丁目の夕日」の舞台になっていることを話したところ、後日、「映画の中の街並みなど、今の栃木市と変わらない」と感想を教えてくれた。今度日本に

来的时候には、家族や友達を連れて栃木市に遊びに来たいと話していた。市外から、海外から見ても栃木市には魅力があるのだと改めて感じた。

4 その他

5 閉会（11：30）